

2020年2月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「基調としては緩やかに持ち直しているものの、足もとでは新型コロナウイルス感染症の影響がみられている」と、前月までの「緩やかに持ち直している」から、下方修正しました。変更は、19/2月の上方修正以来、1年振りです。
- 需要項目ごとの判断でも、観光について、「新型コロナウイルス感染症の影響により、足もとでは弱めの動きとなっている」と下方修正しました。その他の項目には、変更ありません。
- 雇用面や、金融機関の貸出の面については、前回と同じ判断です。労働需給は引き締まっており、金融面でも、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、1月、土日祝日数は前年と同じでしたが、引き続き、暖冬（旭川市の平均気温で平年比+0.6度）の影響で季節商品等が伸びず、前年比で減少しました。もっとも、旭川市内の店については、消費税率引き上げ前の駆け込みが見られた昨年9月以来、4か月振りの前年比増加です。少雪（旭川市の降雪量合計<90cm>で平年比▲48%、最深積雪<51cm>で同▲35%）のため、市街地の道路状況が比較的によかったことが、何某か客足の増加に寄与したのではないかとの声も聞かれました。
- 1月の新車登録台数は、軽自動車、除く軽、合計とも前年を下回りました。合計では昨年10月以降、4か月連続のマイナスですが、マイナス幅は縮まってきています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、1月は前月同様、紋別空港で前年を下回りましたが、旭川、稚内、女満別空港が前年を上回り、全体でも前年を5か月連続で上回りました。この間、旭川空港の国際線は、1月、定期便が前年を上回っている上に、昨年とは出なかった国際チャーター便も加わったため、前年を大きく上回りました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、1月、一部地域で新型コロナウイルス感染症の影響による国内外からのキャンセル等もあり、全体で前年比減少となりました。旭川市内のホテル客室稼働率も、昨年がふっこう割で押し上げられていた反動もあり、前年を下回りました。
- 各地観光施設の入込みは、1月、層雲峡地区、ウトロ温泉で前年を下回りましたが、ウェイトの大きい旭山動物園（速報値）が5か月連続となる前年比2桁増となったほか、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーも前年を上回ったことから、合計（速報値）でも前年を上回りました。
- もっとも、新型コロナウイルス感染症の影響により、足もとでは、ホテル・旅館の宿泊や観光施設の入込み等において、弱めの動きが見られています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、1月、宗谷で前年比増加が続いていますが、上川、オホーツクで前年を下回り、全体で前年を下回りました。一方、19/4月以降20/1月までの累計では、上川、オホーツクで前年を下回りましたが、宗谷では引き続き前年を上回っており、全体でも前年を幾分上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、12月、分譲が前年比トントンとなりましたが、持家、貸家が前年を下回り、全体では再び前年比減少に転じました。四半期ベースで見ると、10～12月期は前年比減少となりました。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、12月、オホーツクで引き続き前年比2倍を超える増加が続いているものの、上川、宗谷で著減となったため、全体でもほぼ前年を4割程度下回りました。もっとも、10～12月期では前年を幾分上回るところに着地し、2期連続の前年比プラスになりました。

■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。有効求人倍率は、12月、前月に続き、旭川、稚内、北見、網走の各職業安定所とも前年を上回りました。新規求人数は、12月、北見以外は前年を下回り、4つの職業安定所を合計した新規求人数では前年を下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、1月も前年を上回りました。1月まで11か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①観光、消費に関し、このところ感染が拡大している新型コロナウイルス感染症の影響を、特に注意して見て参りたいと思います。また、②公共工事につ

いて、一方で道北地域での公共工事請負金額の伸びが北海道全体より見劣りしつつある点も見据えつつ、人手不足の問題を抱える当地の建設業者が受注を続けられるかどうか、③当地の旺盛な設備投資意欲が来年度に向けても維持されるのか、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上